

令和6年度冬期企画展「たがやす」の開催について

県立紀伊風土記の丘では、下記のとおり令和6年度冬期企画展を開催しますのでお知らせします。

- 1 名称 令和6年度冬期企画展 「たがやす」
- 2 会期 令和7年1月18日（土）～令和7年2月24日（月・振替休日）
- 3 場所 和歌山県立紀伊風土記の丘資料館 企画展示室 （和歌山市岩橋1411）
- 4 内容

紀の川が流れる和歌山平野では、江戸時代以降、畿内の商業経済の発達を背景にして、農地で栽培する作物から得る収益を高めるため、夏場の水田稲作とともに、裏作として冬場には田んぼを畠に替えて、麦や菜種などを栽培する「二毛作」が盛んに行われました。

農業が機械化する昭和40年代まで、田んぼや畠の耕作には牛が大活躍するため、農家では牛を飼い、大事に育てました。田植えの前には、犁（カラスキ）などのたがやす道具を使って田んぼの土を掘り起こし、馬鍬（カイガ）を使って土のかたまりを細かく砕き、稲の苗を植えるために水田をならしました。

稲刈りが済み、畠作りの季節になると、田んぼを再び耕し、土を砕いて畠の畝を立て、畝土に筋を付けて種を蒔いたり、苗を植え付けたりしました。また、麦畠では冬場に中耕や除草も必要となるため、さまざまな器具を牛に曳かせて、効率よく畠を管理しました。また明治時代以降には、農作業の効率化を目的として近代化した農耕具が全国的に普及してだけでなく、当地域にあった新しいかたちの農耕具も生み出されます。

本展示では、紀の川流域で行われた昔の二毛作の様子を、耕す道具を通して振り返り、牛とともにあった農家の仕事や農業の工夫について紹介します。

5 開館時間・休館日

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

休館日：毎週月曜日

（月曜日が祝日または休日の場合は次の平日）

6 入館料

一般 190円（20名以上団体割引150円）

大学生 90円（20名以上団体割引70円）

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方および県内在住の留学生は無料（証明書の提示が必要）

7 関連行事

冬期企画展展示講座 令和7年2月9日（日）13:30～15:30

写真データをご希望の方は、kofun@kii.fudoki.wakayama-c.ed.jp あてご連絡ください。

（連絡先）

県立紀伊風土記の丘 学芸課

担当：蘇理

電話：073-471-6123